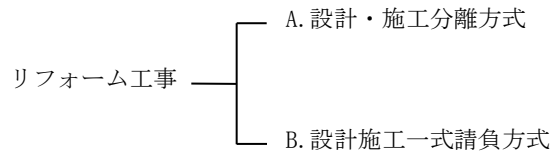


●リフォーム工事の担い手

リフォームを進めるにあたり、設計・施工分離方式と設計施工一式請負方式がある。その選択は住み手のリフォームに対する考え方により方式が異なる。基本的には、設計・施工分離方式は設計者と施工者を分け、客観性を重視する方式であり、設計施工一式請負は、設計から施工まで全体を工務店等が一括する方式。



A. 設計・施工分離方式

この方式は、修繕や製品の交換ではなく、生活スタイルの変化や住まいの全体的改修工事を求める場合に多く、それぞれの専門性を生かした進め方となる。ライフスタイルやデザイン、予算配分など諸課題を提案・計画し設計図を作成する。また内容により、軸組みの腐朽・耐震性などを含めた調査や対応をする場合もある。原則として設計業務は独立に行うが、解体が伴う場合や改修内容、工程によっては設計時に適正な施工予定者を選定し、協力体制をつくり、業務をまとめる。設計の成果は設計図書として施主に提出し、その後設計者は施工者の選定・監理等、工事完成まで係わる方式。

B. 設計施工一式請負方式

この方式は、軽微な修繕から全体改修まで工務店・建設会社等が調査から工事完成まで一括して遂行する方式。古民家の改修は、家屋の状態により現場での柔軟な対応が必要である。現場を熟知する工務店による判断基準も欠かせない。設計業務と工事業務を一括して契約する。この場合は、中立性をもった設計者が介在しないため、所有者自身による施工者の選定、評価をする。

●適正な人材と職能

伝統工法によりリフォームを推進するためには、それぞれの担当者の技術力や判断力が求められる。

●担い手・生産者の棲み分け

伝統工法を継承するリフォームは内容により、技術や知識、経験のほか、調査・計画・設計力、コスト調整・加工技術、現場推進など多様な対応が必要となる。特に施工者は一律的ではないので、それぞれの専門領域に応じた棲み分けが求められる。グレーゾーンは専門特化してはいないが、工種限定的に対応できることが必要であろう。

職能	内容
大工・棟梁	伝統的技術で家造りを実践している大工衆。現代では民家型工法を含む技術をもつ
諸職人	左官職・建具職等の諸職の手仕事を重視し、実践する職人。
設計者	木造建築・伝統技法に専念し知識と技能を蓄積している建築家・デザイナー・プランナー等。調査者を兼ねる場合がある
監理者／管理者	設計者の立場から工事完成まで監理する者。請負工事などは代表者の場合もあり工事管理者となる

